

十日町市 小中一貫教育実施計画

十日町市では、小中一貫教育を平成26年より完全実施としました。3つの教育課題を解決し、目指す子どもの姿を具現化するために小中の円滑なつながりをつくり、9年間を見通した教育活動を展開します。

十日町市で目指す子どもの姿

ふるさと十日町市を愛し 自立して社会で生きる子ども

つながり いっぱい

十日町市の 小中一貫教育

- ・ 9年間を見通した教育課程の編成・実施
- ・ 6・3制を維持しつつ、小中の円滑な接続を目指す

3つの教育課題

学力向上 不登校・いじめの減少 特別支援教育の充実

方策1 教職員のつながり

確かな学力と豊かな心の育成

- ・ 9年間を見通した 教育課程の編成
- ・ 小中の緊密な連携による 切れ目のない支援や指導の推進



乗入れ授業(体育)



1日異校種体験研修会

○市の共通取組事項

- ・ 居心地のよい学級づくりをベースとした
自己有用感を育む取組の充実

○中学校区ごとの取組

- ・ 9年間を通じて育てる子どもの姿を明確にした
グランドデザインの改善・見直し
- ・ 特色ある教育活動の推進

方策2 児童生徒のつながり

豊かな人間性や社会性の育成

- ・ 他校、異学年、異校種の 子どもたちの絆づくり
- ・ 子どもたちが活躍し、認め合う機会を増やす居場所づくり



小中合同陸上練習



小中連携合同修学旅行



縦割り班活動



1日体験入学 部活動体験

方策3 地域とのつながり

地域に誇りを持ち、創造性豊かな子どもの育成

- ・ 地域の学習素材や人材・組織を活用した 体験的学習の充実
- ・ 保護者や地域の組織等と連携した 中学校区の課題解決の推進



児童生徒に関する情報交換会



小中授業交流 相互参観

小中で連携した学習規律づくり

令和6年度の重点

小中と家庭等で連携した家庭学習習慣づくり



特別支援学級児童生徒交流会



いじめ見逃しゼロスクール集会



伝統芸能を学ぶ
地元の協力を得て



生徒会と公民館の企画
フリーマーケット



教育フォーラム
保・小・中学校の保護者・教職員・住民参加



地域のサポーターの協力を得た体験活動



合同あいさつ運動



特別支援学校 中高連携

小中と家庭・保育園等で連携した生活習慣づくり ○○週間 メディアウイーク

児童生徒の

教職員の

つながり

地域との

十日町市で目指す子どもの姿

ふるさと十日町市を愛し 自立して社会で生きる子ども

十日町市の3つの教育課題

学力の向上

不登校・いじめの減少

特別支援教育の充実

十日町市の小中一貫教育

成果と課題

令和5年度小中一貫取組評価アンケート

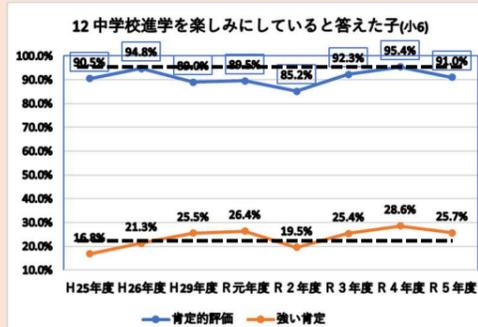
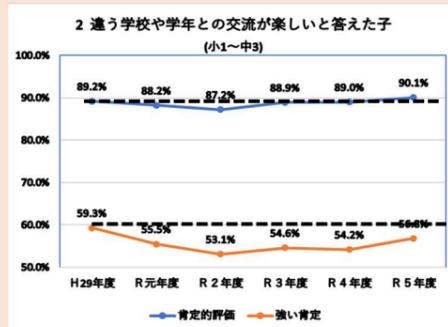
(令和5年10~12月実施) 児童生徒:12項目 2932人 教員:4項目 376人 保護者:2項目 000人 ※グラフ内の破線は小中一貫教育で目指す目標値
「肯定的評価」…4択(「そう思う」「大体そう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」)のうち、「そう思う」と「大体そう思う」と答えた割合の和、「強い肯定」…4択のうち「そう思う」と答えた割合

児童生徒間の 学校間の「つながり」について今後も期待!

十日町市の小中一貫教育の「つながり」は、様々な方策の中でも核となるものです。

小学校同士のつながりを目的とする「小小連携」も小中学校のつながりを深めることを目的とした「小中連携」も、各中学校区において、それぞれの特長を生かし、表面の写真にあるような多様な活動が組み立てられました。

右上のグラフにあるように、学年や校種を越えた活動に楽しさを感じ、中学校進学時の不安よりも楽しさを感じている子どもの割合も高くなっています。



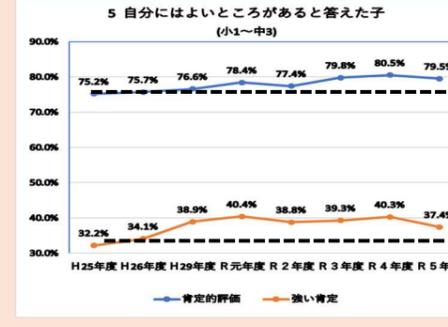
令和元年度以降は、新型コロナウイルス感染下により、これらの交流活動が制限される年が続きました。これらの制限が緩和された今年度以降はさらなる充実した交流活動が期待されます。

市の共通取組事項「居心地のよい学級づくりをベースとした自己有用感を育む」取組のさらなる推進

十日町市で目指す子どもの姿実現のために、平成26年度から市全体で「自己有用感を育む」ことに取り組んできました。

次の2つの場を教育活動の中に位置づけることで、「自己有用感を育む」ことを目指しています。

- ・「絆づくり」…児童生徒が協働的な活動を通して安心して「絆づくり」を進められる場を設定する。
- ・「居場所づくり」…教職員が、児童生徒が安心できる、自己存在感や充実感を感じられる場所をつくる。



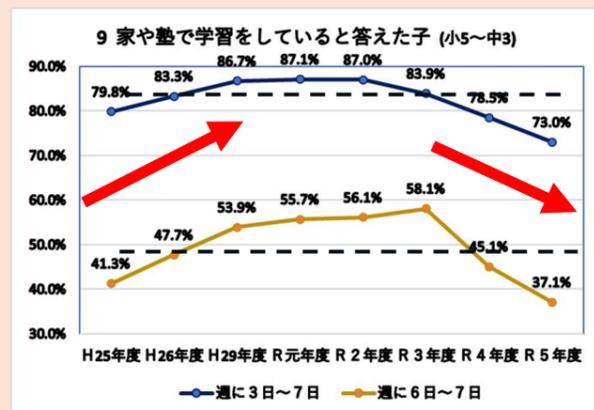
上のグラフの指標を用いた評価では、目標値の破線を概ね上回る状況にあります。

今後も、「居心地のよい学級づくり」をとおして児童生徒の自己有用感を育み、その高まりをペースとして、交流等の小中一貫の取組の質をさらに向上させていけたらと思います。

小中一貫教育 令和6年度に重視したい点

下左のグラフは学校以外で勉強する日を尋ねたもの。1週間に「6~7日」「3~5日」「1~2日」「全くしない」の4択。青い線は「6~7日」と「3~5日」と答えた割合の和。オレンジの線は「6~7日」と答えた割合。

☆家庭学習習慣の低下傾向に注目!



小中一貫教育の立ち上げを検討していた頃の十日町市の教育課題の1つに、家庭学習の習慣ができていない児童生徒が多いことがありました。

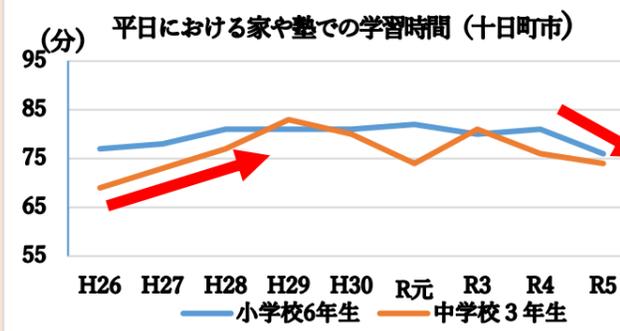
小中一貫教育がスタートしてから、各中学校区において、「家庭学習の5か条」「家庭学習強調週間」等の学習習慣を付けるための取組を保護者等の協力を得ながら、行ってきました。

中には、家庭学習の取組時間だけでなく、自分で家庭学習の計画を立てるマネジメント力を付けるために、発達段階に応じた9年間の子どもの姿を設定して取り組む中学校区もありました。

その結果、左のグラフでもわかるように、令和2年度頃までは順調に家庭学習習慣が改善されている様子が見られました。

しかし、その後の急激な低下が気になります。

同様の傾向は下の全国学力学習状況調査「平日における家や塾での学習時間」でも見られます。



市教育委員会では、「居心地のよい学級づくり」事業で大切にしている学習場面の相互作用の活性化に欠かせない「学習内容の理解と確かな知識の定着を図る方

策」の1つとして、家庭学習を重視しています。

そこで、十日町市では、令和6年度から「ドリルパーク」を全市立学校に導入し、授業や家庭学習での個別最適な学びと学力向上の支援策として活用していくこととしました。

各中学校区においては、例えば、週末にドリルパークの課題配信を行い、それに取り組むことから家庭学習の習慣化を図るなど、ICT教材の活用の工夫し効果的な取組となるようお願いします。

今までも各中学校区で家庭学習定着のための取組がなされておりますが、家庭学習の意味、家庭学習の質や量、具体的な方策について、総合的に見直し、工夫改善を加えていきましょう!

教育委員会等の支援等

○市の共通取組事項

- ・共通取組事項「自己有用感を育む取組」の充実
- 主要事業「居心地のよい学級づくり事業」の推進

○中学校区への支援

- 研修・連絡調整等
 - ・小中一貫教育計画訪問
 - ・小中一貫教育合同研修会(隔年・本年実施なし)
 - ・転入教職員研修
 - ・広報「つながる」発行
- その他の主な支援
 - ・小中一貫教育推進協議会
 - ・小中一貫教育推進コーディネーター研修
 - ・学力向上、生徒指導、相談担当、教員サポート、ICT担当指導主事配置
 - ・臨床心理士、SSW、教育支援員、各種相談員配置
 - ・医療連携等